

松 山 大 学 論 集  
第 35 卷 第 3 号 抜 刷  
2 0 2 3 年 8 月 発 行

## 森本三義学長と松山大学の歴史（上）

川 東 靖 弘

# 森本三義学長と松山大学の歴史（上）

川 東 靖 弘

## 目 次

はじめに

- 1) 2007（平成 19）年 1 月～3 月
- 2) 2007（平成 19）年度
- 3) 2008（平成 20）年度（以上，本号）
- 4) 2009（平成 21）年度（以下，次号）
- 5) 2010（平成 22）年度
- 6) 2011（平成 23）年度
- 7) 2012（平成 24）年度

おわりに

## は じ め に

2006（平成 18）年 12 月末で第 2 次神森智学長・理事長<sup>1)</sup>（2004 年 1 月～2006 年 12 月）の任期が満了するので、新しい松山大学学長選挙規程（神森時代の 2006 年 3 月制定）にもとづき、各母体で選挙管理委員を選出し、選挙管理委員会が設置された（委員長掛下達郎）。

2006 年 10 月 2 日、学長選挙の公示がなされた。選挙権者は 227 名（教員 129 名，職員 98 名）であった。

10 月 16 日，第 1 次投票が行なわれた。1 次投票は選挙権者の自由意思で，特定の候補を立てずに，内外無差別で学長候補にふさわしい人を教職員が選ぶ

---

1) 神森智学長時代ならびにその前の青野勝広学長時代の松山大学の歴史については，拙著『松山大学 苦難・混迷の十五年史――一九九二年一月～二〇〇六年一二月――』（愛媛新聞サービスセンター，2023 年 5 月）を参照されたい。本稿はその続きである。

ものであった。結果は次の通りであった。

1. 選挙権者	227
2. 棄権	36
3. 投票総数	191
4. 無効	6
5. 有効投票	185
森本三義	60
岩橋 勝	57
金村 毅	31
神森 智	9

学長選挙規程では、独立自尊、選挙権者の自由意思での投票をうたっていたが、水面下で組織的な働きかけがあった。その結果、森本、岩橋、金村の上位3名が第2次投票の候補者となった。森本候補は1952年4月生まれ、経営学部教授で常務理事、岩橋候補は1941年9月生まれ、経済学部教授で元理事、金村候補は1943年3月生まれ、人文学部教授で人文学部長を務めていた。

11月7日、第2次投票が行なわれた。結果は次の通りで、2次投票から教員、職員別の投票結果が表示された。

1. 選挙権者	227
2. 棄権	29
3. 投票総数	198
4. 無効	4
5. 有効投票	194
森本三義	91 (教育職員 33, 事務職員 58)
岩橋 勝	71 (教育職員 44, 事務職員 27)
金村 毅	32 (教育職員 17, 事務職員 15)

上記の結果、学長選考規程第10条第1項「全選挙権者の有効投票数の過半数及び選挙権者である教育職員の有効投票数の過半数を得たものがあるときには、その者を学長となるべきものとする」の要件を満たさなかったため、上位2人に対し、第3次投票・決戦投票が行なわれた。

11月24日、第3次投票が行なわれた。結果は次の通りとなった。

1. 選挙権者	227
2. 棄権	28
3. 投票総数	199
4. 無効	7
5. 有効投票	192
森本三義	102（教育職員 40, 事務職員 62）
岩橋 勝	90（教育職員 57, 事務職員 33）

森本候補は「全選挙権者の有効投票数の過半数」を得たが、「教育職員の有効投票数の過半数」を得ていなかった。その結果、学長選考規程第11条の第3項の規定「第三次投票の結果、学長となるべき者が決まらないときは、前項で準用する第10条第1項前段の学長となるべき者に係わる規定にかかわらず、最上位の得票者をもって学長となるべきものとする」により、第4次投票は無く、森本候補が学長候補に決まった。

森本教授の主な経歴は次の通りである。

1952（昭和27）年4月愛媛県生まれ。1975年3月松山商科大学経営学部卒業。同年4月大学院経済学研究科修士課程入学、1977年3月同課程修了。同年4月大阪大学大学院経済学研究科博士課程入学。1981年3月同博士課程単位取得退学。1981年4月松山商科大学経営学部講師。1983年4月助教授、1990年10月教授。1994年4月～1996年3月入試委員長。1998年4月から12月まで就職常任委員長。1998年12月から比嘉清公理事長の下で松山大学理事（財務担当）となり、2001年1月青野勝広理事長の下でも理事を続け、同年11月

寄附行為改正により、常勤理事（財務担当）となっていた。2004年1月第2次神森智理事長の下で引き続き常勤理事（2月13日からは名称変更により常務理事、財務と教学担当兼務）を務めていた<sup>2)</sup>。森本教授は本学出身で、神森智教授のゼミ生であった。

本稿は、森本学長・理事長時代（2007年1月～2012年12月）の6年間の松山大学の歴史について考察するものである。

本時期は、国際政治面では、アメリカのブッシュ共和党政権（2001年1月20日～2009年1月20日）の末期から、オバマ民主党政権（2009年1月20日～2017年1月20日）の時代にあたる。

国際経済面では、ブッシュ政権下の住宅バブルでアメリカは繁栄していたが、2007年夏ごろからのサブプライムローンの焦げつきが始まり、2008年9月に米証券会社大手4位のリーマンブラザーズが破たんし（リーマン・ショック）、世界的金融危機・世界恐慌に発展した時代である。

本時期、日本政治は混迷の時代であった。新自由主義の小泉純一郎内閣（2001年4月～2006年9月）を引き継いだ、第1次安倍晋三内閣（2006年9月～2007年9月）は、「戦後レジームからの打破」「美しい日本の国づくり」を掲げたが、閣僚らの不祥事、年金記録問題、本人の体調不良の結果、突然辞任し、短命に終わった。次の福田康夫内閣（2007年9月～2008年9月）は、サブプライムローン問題で打撃を受けたアメリカ経済救済のため、ブッシュ政権は日本に過大な負担を求めてきたが、それを拒否し辞任した。次の麻生太郎内閣（2008年9月～2009年9月）は、失言やリーマン・ショックの打撃などで、2009年8月30日の衆議院選挙で鳩山由紀夫率いる民主党に敗北した。その結果、歴史的な政権交代となった。民主党内閣は、鳩山由紀夫内閣（2009年9月～2010年6月）、菅直人内閣（2010年6月～2011年8月）、野田佳彦内閣（2011年9月～2012年12月）と続いたが、沖縄の普天間基地問題での迷走、

---

2) 『学内報』第361号、2007年1月。

民主党内でのゴタゴタ，原発対応，消費税問題などで失敗し，いずれも短命に終わった。日本政治劣化の時代であった。

本時期の日本経済をみると，小泉内閣下の新自由主義の下，格差を拡大させながら，「景気回復期」（2002年2月～2007年10月まで69カ月）にあったが，2008年9月のリーマン・ショックを受け，株安，企業倒産・失業の増大，派遣切りが社会問題となり，そこへ，2011年3月11日の東日本大震災が襲いかかり，大きな打撃を受けた時代であった。

大学をめぐる情勢では，私学冬の時代がさらに深刻となり，苦難の時代が続いていた。

本学園では，前年度，神森学長・理事長時代に苦難打破のため，理系の薬学部を発足させ，文理融合の総合大学に向けて舵を切り，歩み始めたものの，薬学部の志願者は予測を大きく外れ，定員割れで大変厳しい状況となった。そんな状況下，森本学長・理事長に学園の舵取りが託された。しかし，森本学長は，教員の支持は少数であった。

## 1）2007（平成19）年1月～3月

2007年1月1日，森本三義教授が第14代松山大学学長・理事長に就任した。森本学長の就任挨拶の大意は次の如くであった。

「今日，大学は全入時代を迎え，全国の私立大学は4割が定員割れであり，今後ますます厳しくなることが予測されます。

私はこれまで財務担当理事5年間，教学担当3年間務めさせていただき，その間，危機的な混迷状態を経験してきましたが，何とか乗り切り今日に至りました。今後，独立自尊の精神に基づいた管理運営を行ない，また校訓三実主義にしたがって教育研究を行ない，社会から信用・信頼され，すべての関係者が誇りのもてる大学にしていきたい。

所信表明でも述べましたが，今後の大学の重点課題として，①三実主義

に基づき個性的な大学づくり、特に、実用に重きを置き、語学教育と資格取得に力を入れたい。②リメディアル教育、導入教育、カウンセリングなどの教育支援を行いたい、そのために教育支援センターを設置し、また、カウンセラーを充実させていきたい。③就職支援のために、キャリア教育の充実や資格取得の支援を行なう。特に、キャリアセンターを移転し、充実させ、また、企業は資格取得者を選好する傾向があるので、資格取得のカリキュラムの編成や中小企業診断士等各種講座の充実をはかる必要がある。そのためにもエクステンションセンターの設置が必要です。④社会人教育を強化し、高校の新卒者のみに依存しない体質に転換する。そのために18歳人口の減少に伴う入学者の不足を社会人で補う必要があり、社会人教育、生涯教育に力を注いでいきたい」<sup>1)</sup>

以上のように、森本学長・理事長は、私学冬の時代、本学園の苦難打破のため、資格取得等の実用主義的教育と教育支援、就職支援、社会人教育を重視した大学づくりを考えていたことがわかる。

森本新学長・理事長の就任時の校務体制は、経済学部長は入江重吉（2005年4月～2007年3月）、経営学部長は藤井泰（2005年2月1日～2007年1月31日）、人文学部長は金村毅（2004年11月1日～2008年3月）、法学部長は廣澤孝之（2006年4月～2008年3月）、薬学部長は葛谷昌之（2006年4月～2011年5月31日）、短大学長は八木功治（2004年4月～2009年3月）、経済学研究科長は清野良栄（2004年4月～2008年3月）、経営学研究科長は中山勝己（2006年4月～2010年3月）であった。図書館長は新しく穴戸邦彦（2007年1月1日～3月31日）、総合研究所長は小松洋（2007年1月～2010年12月31日）が任命され、就任した。教務委員長は安田俊一（2005年4月～2007年3月）、入試委員長は向井秀忠（2006年4月～2008年3月）、学生委員長は中

---

1) 『学内報』第361号、2007年1月。

嶋慎治（2006年7月19日～2007年3月31日）が続けていた。

学校法人面では、昨年末の12月1日から新寄附行為により、越智純展事務局長が当然理事となり、評議員会選出の理事として、田中哲、葛谷昌之、墨岡学が理事となっていたが、その他の新しい理事、常務理事はまだ決まっていなかった<sup>2)</sup>。

1月12日、森本理事長は理事会を開き、寄附行為第6条第1項第4号（事務部長から1～3人以内を理事とする）により、猪野道夫、奥村泰之、西原友昭の3人の部長を理事とした<sup>3)</sup>。事務職重視の法人体制づくりで、それは前神森智理事長時代に制定した寄付行為に基づくものであった。

1月18日、全学教授会を開き、森本学長が副学長として平田桂一経営学部教授を提案し、選出された。平田教授は前、神森智学長時代に副学長に就任して以来、再選となった。

1月20、21日の両日、2007年度の大学入試センター試験が行なわれた。開設2年目の薬学部が新しくセンター利用入試を導入した（募集人員15名）。募集人員は前年に比し、経営は45名から30名に減らし、人文英語も20人から15人減らした。他は前年と変わりなかった。

結果は次の通りであった<sup>4)</sup>。文系は人社は増えたが、他は減少し、厳しい状況が続いた。薬学部は初めての導入であったが、志願者は少なく、先行き不安となった。

表1 2007年度センター利用入試

	募集人員	志願者	（前年）	合格者
経済学部	25名	500名	（542名）	241名
経営学部	30名（前期）	435名	（463名）	255名

2) 『学内報』第363号、2007年3月。

3) 同。

4) 同。



人文英語	15 名	195 名	(214 名)	100 名
社会	15 名	281 名	(263 名)	190 名
法学部	20 名	261 名	(267 名)	155 名
文系合計	105 名	1,672 名	(1,749 名)	941 名
薬学部	15 名	108 名	—	60 名
総 計	120 名	1,780 名	(1,749 名)	1,001 名

1月26日、理事会を開き、寄附行為第6条第1項第2号（副学長を理事とする）により平田副学長を理事に選出した。また、寄附行為第5条第4項の規定（職員理事のうち2人～4人以内を常務理事とする）により、越智純展（事務組織統括）、猪野道夫（財政統括）、平田桂一（教学統括）、墨岡学（総務人事統括、労務、IT）の4人を常務理事に選出した。また、監事として矢野之祥を選出した。また、森本理事長は理事長補佐として、金村毅（人文学部長）と岡村伸生（財務部長）を任命・選任した。学部長を理事長補佐に任命するのは異例であったが、金村補佐はエクステンションセンター構想を、岡村補佐は資産運用を担当とした<sup>5)</sup>。

この理事長補佐人事について一言コメントすると、エクステンションセンター構想なら、平田副学長に指示すればよいことで、態々現職の人文学部長を補佐にするのは疑問があろう。また、資産運用なら猪野常務理事に指示すればよいことで、態々岡村財務部長を補佐にする必要もないだろう。

2月8日～12日の5日間、2007年度の一般入試が行なわれた。8日が薬学部（前期）、9日が経済学部、10日が経営学部、11日が人文学部、12日が法学部の試験であった。一般入試の募集人員は、薬学部（前期）80名、経済216名、経営200名、人文英語50名、人文社会90名、法学部110名であった。募集人員の変化は、2年目の薬学部が前年の前期130名→80名に減らした。そ

5) 『学内報』第363号、2007年3月。

れは、推薦入試（指定校 20 名，一般公募 30 名），センター利用入試（前期 15 名，後期 5 名）を導入し，それらに定員を振り向けたためであった。文系では，経営が前年より 10 名減らし，法学部も 20 名減らした。試験会場は，本学，東京（代々木ゼミナール代々木校），大阪（大阪 YMCA 会館），岡山（代々木ゼミナール岡山校），広島（代々木ゼミナール広島校），小郡（北九州予備校山口校），福岡（公務員ビジネス専門学校），高松（高松高等予備校），徳島（高川予備校佐古本校），高知（土佐塾予備校）の 10 会場。薬学部はさらに，名古屋，米子，大分，鹿児島，沖縄の 5 会場を設けた。検定料は 3 万円。合格発表は 2 月 21 日。

結果は次の通りである<sup>6)</sup>。前年に比し，志願者は 540 名，11.1%も減少し，厳しい状況となった。とくに薬学は半減という非常に厳しい状況となった。

表 2 2007 年度一般入試

	募集人員	志願者	（前年）	合格者	（前年）
経済学部	216 名	1,263 名	(1,436 名)	767 名	(740 名)
経営学部	200 名	1,150 名	(1,184 名)	616 名	(641 名)
人文英語	50 名	304 名	(354 名)	197 名	(209 名)
社会	90 名	650 名	(693 名)	296 名	(280 名)
法学部	110 名	715 名	(710 名)	331 名	(365 名)
文系合計	666 名	4,102 名	(4,377 名)	2,207 名	(2,235 名)
薬学部(前期)	80 名	257 名	(502 名)	200 名	(307 名)
総 計	746 名	4,339 名	(4,879 名)	2,407 名	(2,542 名)

その後，歩留まり予測がはずれ，一般入試で経営 15 名，法 18 名，薬 22 名，センター利用入試で薬が 43 名の追加合格を出すことになった。薬学部は 2 年

6) 『学内報』第 363 号，2007 年 3 月。『学内報』第 364 号，2007 年 4 月。

連続の追加合格で、定員を満たすために低い学力の受験生を入学させたと、批判された。

なお、学費について、文系学部は授業料を前年に比し2万円引き上げ、61万円とした。また、2年次以降の授業料について2万円引き上げのステップ制とした<sup>7)</sup>。前神森理事長時代以来の2年連続授業料のアップ&ステップであった。

2月13日、常務理事会は、FX参照型米ドル為替予約取引を行なうことを決め、正式理事会にはかることを決めた。寄附行為の堅実な資産運用規程に反する行為であった。

3月1日発行の『学内報』第363号に入試委員長の向井秀忠が「2007（平成19）年度入学試験結果報告—一般入試を中心に—」を報告している。そこで、今後の本学の入試改革の方向性について述べている。それは、広島修道大学の志願者増の例に学び、全学統一入試を導入し、一度の入試で複数学部に出席できる併願型入試導入の提案であった<sup>8)</sup>。併願者を増やし、志願者増をねらうものであった。

3月3、4日、2007年度の大学院第Ⅱ期入試が行なわれ、経済学研究科修士課程は6名、経営学研究科修士課程は1名、言語コミュニケーション研究科は6名、社会学研究科は4名合格した。また、博士課程は社会学研究科が1名合格者を出した<sup>9)</sup>。

3月6日、理事会は、金利スワップ13億5,000万円の取り引きを決めた。その内容は①契約期間は2007年3月31日～2016年3月31日。②基準である為替90.2円が円高になれば10%の支払い、円安なら1%の受け取り、という不利な契約であった。この時、為替は1ドル116円であったが、リーマンショック後、急激に円高が進行することになる（2008年12月87円、2009年4月に

7) 『学内報』第358号、2006年10月。

8) 『学内報』第363号、2007年3月。

9) 『学内報』第364号、2007年4月。

101 円に回復したが、その後 2011 年には 75 円台)。寄附行為違反でかつ不利な契約であった。

3 月 6 日、廣澤孝之法学部長の辞任により、法学部長選挙が行なわれ、田村讓教授（64 歳、現代法）が選出された<sup>10)</sup>

3 月 8 日、一般入試で薬学部の後期日程（定員 10 名）、大学センター利用入試で薬学部（定員 5 名）と経営学部の後期日程（定員 15 名）が行なわれ、16 日に薬が一般で 12 名、センターで 7 名、経営がセンターで 41 名発表した<sup>11)</sup>

3 月 14 日、総合研究所主催の「松山大学地域調査報告会」において、経済学部の上田雅弘ゼミの学生たちが「愛媛の紙産業に関する調査と大王製紙の効率性分析」というテーマで報告している<sup>12)</sup>

3 月 20 日、午前 10 時より愛媛県民文化会館にて 2006 年度の卒業式が行なわれた。森本学長は式辞のなかで「目標管理を行ない、なにごとにも失敗を恐れず、積極的に取り組んでください。また、校訓三実主義を我が身に体して実社会で活躍していただきたい」と激励した<sup>13)</sup>。それは次の通りである。

「小鳥のさえずりにも日差しにも春の訪れを感じる今日の佳き日に、多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成十八年度松山大学・大学院学位記・卒業証書・学位記授与式を盛大に挙行できますことは、本校の光栄とするところであり、教職員を代表して心から御礼申し上げます。

修了生および卒業生の皆さん、ご修了・ご卒業おめでとうございます。大学院修士課程では二年間、大学院博士後期課程では三年間、学部では四年間修学し、皆さんが本日こうしてご修了、ご卒業の日を迎えられたことに対して心からお慶び申し上げます。また、保護者の皆様におかれまして

---

10) 『学内報』第 364 号、2007 年 4 月。

11) 同。

12) 同。

13) 同。

も、感慨無量でさぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

さて、修了生および卒業生の皆さん、修了または卒業に当たり、皆さんが入学式を迎えた時を思い起こしてください。このような式典に際しては必ず松山大学の歴史と教学理念について説明があったことと思います。これは、皆さんに自信を持って勉学に励み、卒業または修了しても実社会で誇りを持って活躍していただきたいこと、また、松山大学における教育研究が目指すものを理解していただき、松山大学の教学理念を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行っているのです。本日もこの二点について、まず手短にお話しておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で大阪産業界の雄であった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現 県立松山北高等学校〕校長になられた加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関らないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて松山高等商業学校を創設しました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現 経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。昨春、五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに今春、四番目の大学院であ

る大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓三実主義です。真実とは、「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んで終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。咀嚼すれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすること、また、組織において能力を発揮するためには信用・信頼される人格でなければならないことを説いていると考えます。

皆さんを社会に送り出すに当たりまず期待することは、旧校歌にもあるように、この三実主義をわが身に体して実社会で活躍していただきたいということです。本年は、創立八五年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあって、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これも卒業生の皆さんが、三実主義を体して活躍した結果であり、これが伝統になっていると確信しています。皆さんも伝統を守り、先輩たちに続いてご活躍ください。幸いにもバブル崩壊後、長く続いた不況からも脱しつつあり、就職状況も好転してきました。チャンスを生かして、更なる飛躍を遂げられることを望みます。景気には循環があり不況のときもありますから、その場合にも耐えられるように、実社会において必要なスキルや知識を絶えず修得して

ください。本学も環境の変化に適応させて、皆さんが実社会において必要となるスキルや知識の修得に貢献できるように、教育研究体制を整えてゆきたいと考えています。

皆さんに対してもう一つ期待することは、今後生きてゆくうえでも目標管理を行っていただきたいということです。この四年間においても志を立て、目的や目標を持って日々努力した人はそれぞれに満足のゆく成果を納め、学生生活に満足されていることでしょう。今後実社会において活躍してゆく上でも、志を立て、目標や目的を達成するための計画を立案し実行してください。人生も企業活動と似ていると思いますから、Plan-Do-Check-Action のマネジメント・サイクルで自己管理してください。「意志あるところ道あり」の精神で、決してあきらめないで、時には進んでゆけば道も見えてくることもあり、時にはリスクをとらなければならない時もありますから、失敗を恐れず、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の精神で積極的に取り組んでください。長期的に自己管理できる固い意志を持って人生を歩めば、満足の行く人生を送ることができると思います。

この卒業式には、在学中に交通事故に遭い、ハンディキャップを背負っても初心を忘れることなく卒業に向かって努力し、卒業式に出席している経済学部の本曾智子さんがいます。このように卒業式を迎えることができたのは、計り知れない本人の努力はもちろんのこと、ご両親や指導教授の鈴木茂先生を始め、関係者のご指導・ご協力の賜物と存じます。賛辞を送ると共に今日までご指導・ご協力いただいた関係者の皆様に心からお礼申し上げます。今後もこれまで同様、可能な範囲で目標を立て努力していただきますよう希望いたします。

大学を取り巻く環境は少子化の影響もあって益々厳しくなってきましたが、環境の変化に適応し、校訓「三実主義」に基づいて教育研究に励むことにより、社会から信用・信頼され、卒業生と在生を含む松山大学のすべての関係者が一層誇りを持てる大学になることを目指します。皆さんは

今後卒業生・修了生によって組織される「温山会」の一員になりますから、温山会活動を通じて協力関係が築けることを期待し、最後になりましたが、皆さんがご健勝で社会人として世界的にご活躍いただけることを祈念して式辞といたします。

平成一九年三月二〇日

松山大学

学長 森本 三義 』<sup>14)</sup>

この式辞について、一言コメントしておこう。

- ①加藤彰廉校長の山口高等中学の経歴について。山口高等中学では教諭を経て教授となっているが、校長には就任していないので、この箇所は不正確・間違いである。その後の式辞でも山口高等中学校長と述べているが、訂正する必要がある。
- ②校訓「三実主義」について。初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立されたとして、「三実主義」の「真実」「忠実」「実用」を解説しているが、間違いではないが、正確さに欠ける。この解説文は、田中忠夫校長が明文した詳しい解説文を、戦後第2代星野通学長が1962年に2行程度に簡略・簡明化したものだからである。
- ③卒業生に対し、会計学者らしく、今後の人生をおくるに当たって、目標を持ち、自己管理して、固い意思をもって生きよう述べられていること、また、木曾さんが立派に卒業されたことに言及したのは人間味あふれる式辞となっていた。

3月31日、経済学部の上村克美（68歳、経済政策）が退職した。また、上田雅弘（計量経済学）が退職し、同志社大学に転出した。人文学部では尾崎恒

---

14) 松山大学総務課所蔵。



(国際事情), 増田豊(英語)が退職した。法学部では廣澤孝之(政治学)が退職し, 転出した<sup>15)</sup>

## 2) 2007(平成19)年度

森本学長・理事長1年目である。薬学部2年目である。本年度, 本学では4番目となる大学院言語コミュニケーション研究科(修士課程)が発足した。

本年度の校務体制は, 副学長は平田桂一(2007年1月18日~2008年12月31日)が続けた。経済学部長は新しく宮本順介(2007年4月~2009年3月)が就任した。経営学部長は石田徳孝(2007年2月1日~2008年3月), 人文学部長は金村毅(2004年11月1日~2008年3月)が続け, 法学部長は田村譲(2007年4月~2008年3月)が新しく就任した。薬学部長は葛谷昌之(2006年4月~2011年5月31日), 短大学長は八木功治(2004年4月~2009年3月), 大学院経済学研究科長は清野良栄(2004年4月~2008年3月), 経営学研究科長は中山勝己(2006年4月~2010年3月), 社会学研究科長は山田富秋(2006年4月~2009年3月)が続けた。新設の言語コミュニケーション研究科長は金森強(2007年4月~2009年3月), 図書館長は大浜博(2007年4月~2010年12月)が就任した。総合研究所長は小松洋(2007年1月~2010年12月)が続け, 副所長は新しく松井名津(2007年4月~2008年12月)が就任した。教務委員長は新しく奥村義博(2007年4月~2008年3月)が就任した。入試委員長は向井秀忠(2006年4月~2008年3月), 学生委員長は中嶋慎治(2006年7月~2008年3月)が続けた。

学校法人面では, 常務理事は, 越智純展(2004年1月16日~2010年3月, 事務組織統括), 猪野道夫(2007年1月26日~2010年3月, 財務), 平田桂一(2007年1月26日~, 教学), 墨岡学(2007年1月26日~2012年12月31日, 総務人事統括, 労務, IT総務)が続け, 森本理事長を補佐した。他の理事は,

---

15) 『学内報』第364号, 2007年4月。

事務部長から奥村泰之，西原友昭，評議員から田中哲，葛谷昌之，設立者から新田晃久，温山会から麻生俊介，今井琉璃男，宮内薫，功労者又は大学経営に関する識見者から石川富治郎，一色哲昭，大塚潮治，水木儀三，山崎敏夫であった。監事は，設立者又は縁故者から雑賀英彦（2000年7月29日～2007年10月20日），功労者又は大学経営に関する識見者から高沢貞三（2004年1月16日～2007年7月27日），矢野之祥（2007年1月26日～）が続けていた<sup>1)</sup>。

本年度も次のような新しい教員が採用された<sup>2)</sup>。特に，薬学部は2年目で大量に教員が赴任した。また，言語コミュニケーション研究科が発足に伴う教員も赴任した。

なお，本年度から教員の身分の名称が変更された（助教授→准教授，助手→助教）。

#### 経済学部

熊谷 太郎 1974年生まれ，神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程。新特任の准教授として採用。経済政策論，ミクロ経済学入門等。

#### 経営学部

作田 良三 1971年生まれ，広島大学大学院教育学研究科博士後期課程。准教授として採用。社会科教育法等。

#### 人文学部

佐野 正之 1938年生まれ，ワシントン大学大学院スクール・オブ・ドラマ修士課程，特任の教授として採用。英語教育学特講。

鶴木 真 1942年生まれ，慶応義塾大学大学院法学研究科博士課程，特任の教授として採用。ジャーナリズム論。

---

1) 『学内報』第364号，2007年4月。同第365号，2007年5月。同第372号，2007年12月。

2) 『学内報』第364号，2007年4月。

穴田 浩一 1956年生まれ、横浜市立大学文理学部国際関係課程。教授として採用。英語、国際事情等。

#### 法学部

友澤 悟 1944年生まれ、熊本大学大学院理学研究科修士課程。教授として採用。自然科学概論、地球と人間。

林 恭輔 1973年生まれ、日本体育大学大学院体育学研究科博士前期課程。特任の准教授として採用。体育。

#### 薬学部

岩村 樹憲 1958年生まれ、岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士後期課程。教授として採用。薬品合成化学等。

牧 純 1950年生まれ、東京大学薬学部。教授として採用。微生物学等。

秋山 伸二 1964年生まれ、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程。准教授として採用。薬学。

玉井 栄治 1971年生まれ、岡山大学大学院自然科学研究科博士課程後期。准教授として採用。分子生物学。

奈良 敏文 1963年生まれ、名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程。准教授として採用。物理化学。

畑 晶之 1968年生まれ、千葉大学大学院薬学研究科博士前期課程。准教授として採用。物理化学。

舟橋 達也 1973年生まれ、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程。准教授として採用。くすりを知る。

江崎 啓祥 1977年生まれ、岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士後期課程。助教として採用。

関谷 洋志 1979年生まれ、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程。助教として採用。

好村 守生 1979 年生まれ、岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程。助教として採用。

山内 行玄 1969 年生まれ、岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士課程。助教として採用（7 月 1 日より）。

4 月 3 日、午前 10 時より愛媛県県民文化会館メインホールにて、2007 年度の松山大学、大学院の入学式が行なわれた。経済 442 名、経営 425 名、人英 115 名、人社 155 名、法 225 名、薬 134 名、計 1,496 名が入学した。2 年目の薬学部は定員 160 名を満たさなかった。大学院は経済学研究科博士課程 1 名、修士課程 8 名、経営学研究科博士課程 0 名、修士課程 9 名、言語コミュニケーション科修士課程 5 名、社会学研究科博士課程 1 名、修士課程 4 名であった。

森本学長は式辞において、本学の歴史と伝統や創立者の高い志、三恩人、卒業生の活躍、部活動の輝かしい成績、校訓「三実主義」などについて紹介し、最後に「校訓三実主義に基づいて教育研究を行なうことにより、皆さんが修了または卒業を迎えた時に、本学に入学し教育を受けて良かったと満足していただけるように努力することを誓います」と述べた<sup>3)</sup>。それは次の通りである。

「花も咲き誇る季節となり、希望に満ちた若人を新たに迎え入れる慶びの中、多数のご来賓ならびにご父母の皆様のご臨席を賜り、平成十九年度松山大学大学院・松山大学入学宣誓式をかくも盛大に举行できますことは、本校の光栄とするところであり、教職員一同に代わり、ご出席の皆様に対して謹んで御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。まずは教職員を代表して皆さんのご入学に対して心から歓迎の意を表します。ご父母の皆様におかれましては、ご入学を迎えられ、感慨無量でさぞかしご安堵なさられて

---

3) 『学内報』第 365 号、2007 年 5 月。

いるものと拝察し、心からお慶び申し上げますとともに、「大学全入時代」を迎えた状況の中で、松山大学へお子様をお送りくださいましたことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん、これから大学院修士課程では二年間、大学院博士後期課程では三年間、薬学部を除く四学部では四年間、薬学部では六年間の長期にわたり修学することになりますが、入学式に際しては、従来から常に、松山大学の歴史と教学理念について説明を受けています。それは、皆さんが在学中も自信と誇りを持って勉学に励み、修了後または卒業後にも実社会において自信と誇りを持って活躍していただきたいこと、また、松山大学における教育研究が目指すものを理解していただき、松山大学の教学理念を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行われているのです。本日もこの二点について、手短にお話しておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で皮革製造業〔ベルト製造業〕において成功し、日本の産業発展に貢献した実業家の新田長次郎〔雅号温山〕、外務大臣秘書官、大使、公使歴任後、衆議院議員、貴族院議員に選任され、後年第五代松山市長となった政治家であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現 県立松山北高等学校〕校長になられた教育家の加藤彰廉らの協力によって設立されました。教育の重要性を認識し、「自主独立の精神」を尊重していた長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関らないことを条件に、設立資金として巨額の私財（当時のお金で四五万円）を投じて、私立では全国で三番目の松山高等商業学校を創立しました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革

により、昭和二十四年に商経学部〔現 経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。昨春、五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会科学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに今春、四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓三実主義です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。咀嚼すれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすること、また、組織において能力を発揮するためには信用・信頼される人格でなければならないことを説いていると考えます。

本年は、創立八五年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万人に達し、産業界中心に教育界や官公庁などにあって、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。地元愛媛の産業界におけるトップや役員が多く、平成一八年九月発行の週刊ダイヤモンドによれば、本学の卒業生の「出世力」は国公立大学七三〇校中三五位（私立大学では約五六〇

校中一三位)と評価されており、上場企業の取締役になっている者の同級生に占める割合が、非常に高くなっています。これは卒業生の皆さんが、三実主義を体して活躍した結果であり、これが伝統になっていると確信しています。入学生の皆さんも先輩たちに続いて活躍できるように、三実主義を体得し伝統を引き継いでいただきたいと思います。

本学の教育研究の特色は、このように校訓三実主義に基づく教育研究にあります。申し上げるまでもなく、教育は、知育、徳育および体育からなっています。大学教育では正課として知育を重点的に行いますが、本学では課外活動にも注力して、伝統的にバランスのとれた教育を行ってきたと確信しています。その成果として、課外活動においても輝かしい実績を残しており、前年度に限っても、四国インカレにおいて男子は二一年連続となる四七度目、女子は二〇年連続二〇度目の総合優勝を果たし、なぎなた部および女子弓道部が団体戦で全国優勝を遂げました。卒業生では土佐礼子選手が昨年十一月一九日開催の東京国際マラソンで優勝し、本年八月に大阪で開催される世界陸上選手権のマラソン代表の一員に決定していることは皆さんご存じでしょう。課外活動を通じて、協調性、忍耐力、コミュニケーション能力などを身に付けていただきたいと思います。

皆さんに対してもう一つ期待することは、入学後修学してゆく上で、目標管理を行っていただきたいということです。過去の卒業生の場合にも、志を立て、目的や目標を持って日々努力した人は、それぞれに満足のゆく成果を納め、満足の行く学生生活を送ることができています。薬学部入学生の目標は、まずは薬剤師試験に合格することでしょうが、文系学部入学の場合には、卒業後の進路については漠然としか考えていない場合が多いでしょう。その場合には可能な限り早く志を立て、将来の進路を決定して、目標や目的を持って勉学に励んでいただきたいと思います。進路決定に役立てていただくためにキャリア・プランニングに関連する授業が行われますから、積極的に受講してください。指導教授やカウンセラーの先生達に

相談することもできます。目標や目的を持つことができれば、一年ごとに目標や目的を達成するための計画を立案し、実行してください。在学中、このようにして学生時代を送ることができれば、満足の行く結果を出すことができるでしょう。

バブル崩壊後、長く続いた不況からも脱しつつあり、就職状況も急速に好転してきましたが、景気循環により不況になることも想定しておかなければなりません。どんな状況においても、最終的には希望する進路へ進むことができるように、実力を養成してください。校訓「三実主義」に基づいて教育研究を行うことにより、皆さんが修了または卒業を迎えた時に、本学へ入学し教育を受けて良かったと満足していただけるように努力することを誓って、式辞といたします。

平成十九年四月三日

松山大学

学長 森本 三義 J<sup>4)</sup>

この式辞について、一言コメントすると、松山大学の歴史や教育理念の解説は、先の卒業式の式辞と同じであるが、本学卒業生の活躍（出世力）や在校生の部活動の活躍、卒業生の土佐礼子マラソン選手の活躍等について、やや詳しく述べているのが特徴的であった。

4月10日、御幸グランド隣接地に薬学部附属薬用植物園の新設工事清祓式がとり行なわれた<sup>5)</sup>

4月、2007年度の厳しい入試結果を受け、志願者増を図るべく、入試制度改革検討委員会が設置され、各学部から委員が選出された。経済学部は川東埤弘、経営学部は菊池一夫、人文学部は永野武、法学部は波多野雅子、薬学部は河瀬雅美であった。以降、平田副学長、向井入試委員長のもとで、入試改革の

---

4) 松山大学総務課所蔵。

5) 『学内報』第365号、2007年5月。



検討が始まった。

6月1日、入試説明会が行なわれ、2008年度の入学試験要項の説明がなされた。前年度との変化は、経済が一般入試の定員を216名→203名に減らし、センター利用入試について、後期を導入し、定員も25名→前期20名、後期15名に増やしたこと、薬学部が、一般入試の日程を早め、前期、中期としたこと、定員は前期（80名）は変わらないが、中期を20名にしたこと、センター利用入試の前期を15名→5名に減らしたこと、等である。他学部は変わらない。

6月、2008年度の大学院修士課程学内進学者特別選抜入試が行なわれ、経済学研究科は1名受験し、1名が合格した。経営学研究科はいなかった。

7月1日発行の『学内報』に2006年度決算の概要が報告されている。そこで、BNPパリバ銀行の仕組債に40億2,000万円投資運用していること、ならびに、デリバティブ取引に34億円契約していることが明らかになった。そして、仕組債で、時価割れで1億6,989万円の損失が出ていた<sup>6)</sup>

7月27日、監事で名誉教授の高沢貞三教授が亡くなった。75歳であった<sup>7)</sup>

9月30日、経営学部のアドミッションズ・オフィス入試が行なわれた。募集人員は30名、志願者は210名、合格者は71名であった。

9月15、16日、2008年度大学院の第I期入試が行なわれ、経済学研究科は2名が受験し、合格者はいなかった。経営学研究科は6名が受験して2名が合格した。言語コミュニケーション科は1名が受験し、1名が合格、社会学研究科は2名が受験し、1名が合格した<sup>8)</sup>

10月1日発行の『学内報』に、理事会は2008年度の学費について、学費改定は行なわず、2007年度入学と同額（61万円）とすること、2年次以降の2万円引き上げのステップ制は続けるとした<sup>9)</sup>

---

6) 『学内報』第367号、2007年7月。

7) 『学内報』第370号、2007年10月。

8) 『学内報』第371号、2007年11月。

9) 『学内報』第370号、2007年10月。

10月1日、東京オフィスを東京銀座8丁目ニッタビルの6階に開設した。

10月20日、監事の雑賀英彦が退任した<sup>10)</sup>

11月11日、薬学部の2008年度の推薦入試が行なわれた。募集人員は前年度に比し、薬学指定校を20名→30名に増やし、一般公募を30名→20名に減らした。

11月17、18日の両日、2008年度の文系の推薦・特別選抜入試が行なわれた。募集人員について、経済が特別選抜を14名→17名に3名増やした。他は変化なかった。

結果は次の通りであった<sup>11)</sup>。人文英語の指定校は定員を満たさなかった。また、薬学部の推薦入試は指定校も一般公募も定員を満たさず、厳しい結果となった。

表1 2008年度推薦・特別選抜入試

	募集人員	志願者	合格者
経済学部（指定校制）	105名	114名	114名
（一般公募制）	30名	169名	67名
（特別選抜）	17名	13名	12名
経営学部（指定校制）	50名	51名	51名
（一般公募制）	32名	173名	66名
（アドミッションズ・オフィス）	30名	210名	71名
（特別選抜）	33名	34名	33名
人文英語（指定校制）	25名	17名	17名
（特別選抜）	10名	14名	14名
社会（指定校制）	15名	27名	27名
（特別選抜）	若干名	1名	1名

10) 『学内報』第372号、2007年12月。

11) 『学内報』第373号、2008年1月。

法学部	(指定校制)	20 名	21 名	21 名
	(一般公募制)	60 名	209 名	146 名
	(特別選抜)	若干名	0 名	0 名
薬学部	(指定校制)	30 名	27 名	27 名
	(一般公募制)	20 名	16 名	15 名

12月1日、故高沢貞三名誉教授の後任の法人監事に増田豊名誉教授が選出された<sup>12)</sup>

12月12日、田村譲法学部長の定年による学部長選挙が行なわれ、妹尾克敏(54歳、地方自治法)が選出された。任期は2008年4月より2年間<sup>13)</sup>

12月14日、金村人文学部長の定年に伴う学部長選挙が行なわれ、牧園清子(58歳、福祉社会学)が選出された。任期は2008年4月より2年間<sup>14)</sup> 女性学部長の最初であった。

12月19日、石田経営学部長の定年退職により、学部長選挙が行なわれ、平田桂一(60歳、商学総論、現副学長・教学担当常務理事)が選出された。任期は2008年4月1日から2年間<sup>15)</sup>

12月22日、総合研究所主管の「松山大学地域調査報告会」が820番教室で行なわれ、法学部の田村ゼミが「憲法改正に関する愛媛県民の意識調査」「平和の語り部としての戦跡=ここも戦場だった」を報告している<sup>16)</sup>

2008年1月1日付けで、監事として、設立者から新田孝志氏が就任した<sup>17)</sup> 雑賀英彦(2000年7月～2007年10月)の後任であった。

1月12日、総合研究所主管の「松山大学地域調査報告会」が東本館会議室で

12) 『学内報』第373号、2008年1月。

13) 同。

14) 同。

15) 『学内報』第374号、2008年2月。

16) 同。

17) 同。

行なわれ、法学部の田村ゼミが、「南予の活性化なくして、愛媛の活性化無し！」のテーマで報告し、また、松山市の「日本一のまちづくり」の企画で最優秀賞に選ばれた「大人も使える子供用学習シート～施設をもっと活用しよう」と優秀賞の「石碑を観光資源のひとつとして」の報告がなされている<sup>18)</sup>

1月17日の教学会議で、入試制度改革について昨年末の答申が報告され、承認された。その要は、従来4日間にわたって、5学部分の入試問題を作成していたが、教職員に大変な労働強化、負担となっており、また受験生も併願の場合には、2日～4日間も受験し経済的にも身体的にも負担であったので、改善、改革することにした。そして、一般入試を第Ⅰ期入試と第Ⅱ期入試に分け、Ⅰ期入試は1月末に早く実施し、2科目試験で行ない、Ⅱ期入試は従来通り2月実施であるが、2日間とし、1日目は経済・経営、2日目は人文、法、薬の試験とし、併願を認めた。そして、併願の場合には受験料を軽減（1万円）することにし、併願を誘導することとした。

1月19、20日の両日、2008年度の大学入試センター試験が行なわれた。センター利用入試では経済が前期と後期に分け、前期は20名とし、薬の前期も15名から5名に減らした。他は前年と変わりなかった。経営学部は1月27日にセンター利用入試前期A方式（個別試験併用型）を行なった。

結果は次の通りであった<sup>19)</sup> 文系は人文の志願者が減少したが、経済・経営・法は増えた。他方、薬学部は志願者が減り、厳しい状況が続いた。

表2 2008年度センター利用入試

	募集人員	志願者	(前年)	合格者
経済学部	20名(前期)	569名	(500名)	363名
経営学部	30名(前期)	489名	(435名)	299名
人文英語	15名	132名	(195名)	69名

18) 『学内報』第374号、2008年2月。

19) 『学内報』第375号、2008年3月。

社会	15 名	249 名	(281 名)	134 名
法学部	20 名	262 名	(261 名)	165 名
文系合計	110 名	1,701 名	(1,672 名)	1,030 名
薬学部	5 名(前期)	78 名	(108 名)	64 名
総 計	105 名	1,779 名	(1,780 名)	1,094 名

1月25日、松山大学は、南海放送旧本社土地・建物を購入した。総額約12億円であった。この土地は戦前田中忠夫校長の時代に農地として購入したものであったが、戦後の農地改革で小作人の所有となったものを南海放送が購入し本社として利用していたものであった（神森智先生より）。

1月27、28日の両日、薬学部の一般入試前期日程（定員80名、前年と同じ）が行なわれた。この年から薬学部は一般入試を前期と中期に分割し、前期は早く試験を行なった（後期はない）。

結果は次の通りであった<sup>20)</sup>。入試を早めたにも関わらず、志願者は増えず、逆に激減した。薬学部の苦境が続いた。

**表3 薬学部2008年度一般入試前期**

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	(前年)	実質競争率
薬学(前期)	80 名	176 名	(257 名)	134 名	(200 名)	1.31

1月31日、第3回全学教授会が開かれ、2008年度の共通教育科目及び担当者等、南海放送跡地を12億円で購入したこと、2009年度からの入試制度改革等の報告があった。

2月1日発行の『学内報』第374号に、2007年度更正予算概要が示され、そこで南海放送跡地の購入12億1,951万円が計上された。また、新事務シス

20)『学内報』第375号、2008年3月。

テム追加構築費として、当初予算の1億5,404万円が2億1,380万円に変更された<sup>21)</sup>

2月9日～12日の4日間、2008年度の一般入試が行なわれた。9日が経済学部、10日が経営学部、11日が人文学部、12日が法学部と薬学部（中期日程）の試験であった。一般入試の募集人員は、経済203名、経営200名、人文英語50名、人文社会90名、法学部110名、薬学部中期20名であった。変化は、経済が前年の216名→203名に13名減らしたことで、他は変わらない。試験会場は、本学、東京（代々木ゼミナール代々木校）、大阪（大阪YMCA会館）、岡山（代々木ゼミナール岡山校）、広島（代々木ゼミナール広島校）、小郡（北九州予備校山口校）、福岡（公務員ビジネス専門学校）、高松（高松高等予備校）、徳島（高川予備校佐古本校）、高知（土佐塾予備校）の10会場。薬学部は、さらに四国中央、宇和島、名古屋、米子、大分、鹿児島、沖縄の7会場でも行なった。検定料は3万円。合格発表は2月21日。

結果は次の通りであった<sup>22)</sup>。志願者は、全学で減少し、文系は合計3,563名（前年4,082名）で前年に比し519名、12.7%の減少で、前年以上にますます厳しい状況となった。薬学部の中期（定員20名）はとくにひどく、志願者34名いたが、受験者は11名しか集まらず、惨憺たる状況となった。

表4 2008年度一般入試

	募集人員	志願者	（前年）	合格者	（前年）
経済学部	203名	1,140名	(1,263名)	647名	(767名)
経営学部	200名	1,015名	(1,150名)	593名	(631名)
人文英語	50名	260名	(304名)	200名	(197名)
社会	90名	556名	(650名)	225名	(296名)

21) 『学内報』第374号、2008年2月。

22) 『学内報』第375号、2008年3月。2007年度の合格者には追加合格を含む。『学内報』第366号、2007年6月。

法学部	110 名	592 名	(715 名)	281 名	(349 名)
文系合計	653 名	3,563 名	(4,082 名)	1,946 名	(2,240 名)
薬学部(中期)	20 名	34 名	(15 名)	9 名	(12 名)
総 計	673 名	3,597 名	(4,097 名)	1,955 名	(2,252 名)

なお、歩留まり予想がはずれ、一般入試で、経済 79 名、人社 69 名の追加合格を出した。センター利用入試では、経済 40 名、経営 34 名、薬 3 名の追加合格を出した。

なお、学費については、授業料は前年と同様で、値上げをしなかった。

3 月 1, 2 日の両日、大学院第Ⅱ期入試が行なわれ、経営学研究科修士課程が 2 名、言語コミュニケーション研究科修士課程が 1 名、社会学研究科修士課程が 2 名合格した<sup>23)</sup>

3 月 3 日、センター利用入試後期日程が行なわれ、経済 15 名、経営 15 名、薬学部 5 名の募集に対し、経済 62 名、経営 84 名、薬学部 7 名の志願者があり、それぞれ 40 名、34 名、3 名を合格発表した<sup>24)</sup>

3 月 4 日、中山大学院経営学研究科長の任期満了に伴う科長選挙が行なわれ、中山勝己(公告論、消費者行動論)が選出・再選された<sup>25)</sup> 任期は 2008 年 4 月から 2 年間。

3 月 6 日、清野大学院経済学研究科長の任期満了に伴う科長選挙が行なわれ、川東埤弘(60 歳、日本経済論、農業経済論)が選出された<sup>26)</sup> 任期は 2008 年 4 月から 2 年間。

3 月 19 日、午前 10 時より愛媛県県民文化会館にて 2007 年度の卒業式が行なわれた。経済学部 343 名、経営学部 372 名、人文英語 129 名、人文社会 129 名、法 239 名が卒業し、大学院では、経済修士 3 名、博士 1 名、経営修士 7 名、

23) 『学内報』第 376 号、2008 年 4 月。

24) 同。

25) 同。

26) 同。

博士1名，社会3名が修了した。この時，経済学研究科博士課程で李紅梅，経営学研究科で佐々木宣夫が博士号を取得した。森本学長は式辞において，就職や進学に際しては，大志を抱き，それを成し遂げるべく強い意思をもって粘り強く努力していただきたいと，餞の言葉を贈った<sup>27)</sup>それは次の通りである。

「日差しも日を追うごとに強さをまし，川辺の菜の花も咲いて，春の訪れを感じる今日の佳き日に，多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り，平成十九年度松山大学・大学院学位記・卒業証書・学位記授与式を盛大に挙行できますことは，本校の光栄とするところであり，教職員を代表して心から御礼申し上げます。

修了生および卒業生の皆さん，ご修了・ご卒業おめでとうございます。大学院修士課程では二年間，大学院博士後期課程では三年間，学部では四年間修学し，皆さんが本日こうしてご修了，ご卒業の日を迎えられたことに対して心からお慶び申し上げます。また，保護者の皆様におかれましても，感慨無量でさぞかしご安堵なされているものと拝察し，心からお慶び申し上げます。

さて，修了生および卒業生の皆さん，卒業式では伝統的に必ず松山大学の歴史と教学理念について述べられます。これは，松山大学大学院修了生または松山大学卒業生として，実社会で誇りを持って活躍していただきたいこと，また，教学理念を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行っているのです。本日この二点について，まず手短にお話しておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は，松山出身で，製革業すなわち工業用革製ベルト製造業において成功し，大阪産業界の雄となり，世間からは「東

---

27) 『学内報』第376号，2008年4月。



洋の製革王」と呼ばれるまでにのほりつめた新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現県立松山北高等学校〕校長になられた加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関らないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて松山高等商業学校を創立しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会貢献をされました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現 経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに昨春、四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓三実主義です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに

終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。咀嚼すれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにする、また、組織において能力を発揮するためには信用・信頼される人格でなければならないことを説いていると考えます。

皆さんを社会に送り出すに当たりまず期待することは、この三実主義をわが身に体して、信用・信頼を大切にして実社会で活躍していただきたいということです。本年は、創立八十六年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万二千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあつて、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これも卒業生の皆さんが、三実主義を体して活躍した結果であり、これが松山大学の伝統になっていると確信しています。皆さんも伝統を守り、先輩たちに続いてご活躍ください。幸いにもバブル崩壊後、長く続いた不況からも脱し、団塊世代の大量退職の影響もあり、就職状況は好転して売り手市場となりました。このチャンスを生かして、更なる飛躍を遂げられることを期待します。世界経済はアメリカのサブプライム・ローン問題の影響により先行き不透明になっていますが、元来、景気には循環があり好況不況を繰り返します。思い起こせば、バブル時代の就職状況は売り手市場でした。勞せずしてバブル時代の就職した人達の中にはバブル崩壊後リストラにあい、転職を余儀なくされた人も少なくなかったことも留意してください。困難に直面しても克服できるように、実社会において必要なスキルや知識を絶えず修得してください。昨年、幸いにも隣接の不動産を南海放送株式会社から譲渡していただくことができましたので、本学も環境の変化に適應させて、皆さんを支援できる生涯教育も担うことも可能になるよう施設を充実し、教育研究体制をさらに整えてゆきたいと考えています。

皆さんに対してもう一つ期待することは、就職や進学に際しては、大志

を抱き、それを成し遂げるべく強い意志をもって粘り強く努力していただきたいということです。温山翁は二十歳で大志を抱いて温泉郡山西村（現松山市山西町）から大阪に出て、努力しながら紆余曲折の後、製革業に従事して成功したのです。また、皆さんご承知の通り、本学人文学部卒業生の土佐礼子選手が三月一〇日に北京五輪マラソン代表に正式に決定し、二大会連続の出場となりました。土佐選手の本領は最後まであきらめない、「驚異的な粘り強さ」にあります。温山翁の精神を継承し、土佐選手のような粘り強さをもって、大志を抱き目標に向かって努力していただきたいのです。大志を抱いて生涯自己管理できる固い意志を持って人生を歩めば、満足の行く人生を送ることができると思います。

少子化による私立大学の定員割れは、昨春のデータによれば、全国的には約四〇％、中国地方で約六七％、四国地方で約八八％に達して、四国が最も厳しい状況にあります。このような逆境にあっても、環境の変化に適応し、校訓「三実主義」に基づいて教育研究に励むことにより、受験生にとっても在学生にとっても魅力的で、社会から信用・信頼され、卒業生と在学生を含む松山大学のすべての関係者が一層誇りを持てる大学になることを目指します。卒業生の皆さんの実社会におけるご活躍が大学への最大の支援にもなります。卒業生・修了生によって組織される「温山会」は全国的に組織され、活発に活動しています。皆さんも温山会の一員になりますから、温山会活動を通じて協力関係が築けることを期待し、最後になりましたが、皆さんが地域・社会のために、さらには世界のために貢献できるようにご健勝でご活躍いただけることを祈念して式辞といたします。

平成二〇年三月一九日

松山大学

学長 森本 三義 ]<sup>28)</sup>

---

28) 松山大学総務課所蔵。

式辞中、森本学長は長次郎翁の紹介について、「東洋の製革王」と述べているが、正確には「東洋之帯革王」（牧野輝智）であろう。以後の式辞も同様。

3月31日、経済学部では童適平（新特任）が退職し、明治大学に転出した。人文学部では金村毅（体育）、松井茂樹（社会学）が退職した。法学部では向井秀忠（英語）が退職、転出した。<sup>29)</sup>

### 3）2008（平成 20）年度

森本学長2年目である。薬学部3年目である。

本年度の校務体制は、副学長は平田桂一（2007年1月18日～2008年12月31日）、経済学部長は宮本順介（2007年4月～2009年3月）が続けた。経営学部長は新しく平田桂一（2008年4月～2012年3月）が就任した。副学長との兼務であった。人文学部長は新しく牧園清子（2008年4月～2010年3月）、法学部長は新しく妹尾克敏（2008年4月～2012年3月）が就任した。薬学部長は葛谷昌之（2006年4月～2011年5月31日）、短大学長は八木功治（2004年4月～2009年3月）が続けた。大学院経済学研究科長は新しく川東埤弘（2008年4月～2010年3月）が就任した。経営学研究科長は中山勝己（2006年4月～2010年3月）が再選され、社会学研究科長は山田富秋（2006年4月～2009年3月）、言語コミュニケーション研究科長は金森強（2007年4月～2009年3月）が続けた。図書館長は大浜博（2007年4月～2010年12月）、総合研究所長は小松洋（2007年1月～2010年12月）、副所長は松井名津（2007年4月～2008年12月31日）が続けた。教務委員長は新しく今枝法之（2008年4月～2009年3月）、入試委員長は増野仁（2008年4月～2010年3月）、学生委員長は菊地秀典（2008年4月～2009年3月）が就任した。

学校法人面では、常務理事は、越智純展（2004年1月16日～2010年3月、事務組織統括）、猪野道夫（2007年1月26日～2010年3月、財務）、平田桂一

---

29) 『学内報』第376号、2008年4月。

(2007年1月26日～2010年3月, 教学), 墨岡学(2007年1月26日～2012年12月31日, 総務人事統括, 労務, IT 総務)が続けた。理事長補佐は新しく安田俊一(2008年4月～6月)が就任し, 岡村伸生(財務部長)は引き続き続けた。監事は, 新田孝志(2008年1月1日～), 矢野之祥(2007年1月26日～2010年12月31日), 増田豊(2007年12月1日～2009年5月31日)が続けた<sup>1)</sup>。

本年度も次のような新しい教員が採用された<sup>2)</sup>。薬学部3年目で本年も多く採用された。

#### 経済学部

溝渕 健一 1980年生まれ, 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程, 講師として採用。計量経済学, ミクロ経済学。

#### 法学部

遠藤 泰弘 1976年生まれ, 北海道大学大学院法学研究科博士後期課程, 准教授として採用。政治学原論, 政治学等。

新井 英夫 1977年生まれ, 日本大学大学院文学研究科, 講師として採用。英語。

田中 雅敏 1975年生まれ, 広島大学大学院社会科学研究科博士課程。講師として採用。ドイツ語。

#### 薬学部

出石 文男 1947年生まれ, 京都薬科大学薬学部。教授として採用。医療薬学。

難波 弘行 1953年生まれ, 東邦大学大学院薬学研究科博士課程。教授として採用。

---

1) 『学内報』第376号, 2008年4月。

2) 同。

- 野元 裕 1955 年生まれ，東京大学大学院理学研究科博士課程。教授として採用。生化学。
- 松岡 一郎 1955 年生まれ，大阪大学理学研究科博士課程後期。教授として採用。細胞生物学，生理学等。
- 宮内 正二 1961 年生まれ，東京大学薬学系大学院博士課程。教授として採用。薬剤学。
- 中村 真 1960 年生まれ，北海道大学大学院薬学研究科博士課程。准教授として採用。細胞生物学，生理学。
- 八重 徹司 1963 年生まれ，福岡大学大学院薬学研究科博士課程前期。准教授として採用。
- 山口 巧 1968 年生まれ，徳島大学大学院博士前期課程。准教授として採用。医療薬学等。
- 相良 英憲 1978 年生まれ，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程。講師として採用。
- 小林三和子 1967 年生まれ，北海道大学大学院薬学研究科博士課程。助教として採用。
- 下野 和美 1973 年生まれ，北海道大学大学院薬学研究科博士課程。助教として採用。

4 月 3 日，午前 10 時より愛媛県県民文化会館メインホールにて，2008 年度の松山大学，大学院の入学式が行なわれた。経済 407 名，経営 433 名，人英 120 名，人社 125 名，法 271 名，薬 113 名，計 1,469 名が入学した。3 年目の薬学部は定員 160 名を本年度も満たさなかった。また，大学院は経済学研究科修士課程 1 名，経営学研究科修士課程 4 名，言語コミュニケーション研究科 2 名，社会学研究科 3 名が入学した<sup>3)</sup>。森本学長の式辞は次の通りであった。

---

3) 『学内報』第 376 号，2008 年 4 月。同 378 号，2008 年 6 月。

「待ちわびた桜も咲き希望に満ちた新入生の皆さんを新たに迎え入れる慶びの中、多数のご来賓ならびにご父母の皆様のご臨席を賜り、平成二十年度松山大学大学院・松山大学入学宣誓式をかくも盛大に挙行できますことは、本学の光栄とするところであり、教職員を代表して、ご出席の皆様に対して謹んで御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学に対して心から歓迎の意を表します。保護者の皆様におかれましては、本日ご入学を迎えられ、感慨無量でさぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げますとともに、十八才人口の減少に伴い大学進学が容易になって選択肢が広がっている状況の中で、松山大学へ進学いただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん、これから大学院修士課程では二年間、大学院博士後期課程では三年間、薬学部を除く四学部では四年間、薬学部では六年間の長期にわたり修学することになりますが、皆さんが在学中も本学の学生として自信と誇りを持って勉学に励み、修了後または卒業後にも実社会において松山大学大学院修了生または松山大学卒業生として自信と誇りを持って活躍していただきたいと願い、また、松山大学における教育研究が目指すものを理解していただき、松山大学の教育理念を生かして実社会において活躍していただきたいと願い、本日も松山大学の歴史と教育理念について、お話しておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、皮革製造業すなわち工業用革製ベルト製造業において成功し、大阪産業界の雄となって日本の産業発展に貢献した新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現 県立松山北高等学校〕校長になられた教育家の加藤彰廉らの協力によって設立されました。教育

の重要性を認識し、「自主独立の精神」を尊重していた長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関らないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、私立では全国で三番目の松山高等商業学校を創立しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会のために貢献をされたのです。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現 経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年（二〇〇六年）に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに昨春、四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓三実主義です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。言い換えれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を



日々の生活や仕事の中に応用できるものにすること、また、組織において能力を発揮するためには信用・信頼される人格になることが重要であることを説いていると考えます。

本年は、創立八十六年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万二千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあって、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。地元愛媛の産業界におけるトップの多くは本学出身です。これも卒業生の皆さんが、三実主義を体して活躍した結果であり、これが松山大学の伝統になっていると確信しています。入学生の皆さんも三実主義を体し伝統を引き継いでいただいて、先輩たちに続いて実社会で活躍できるように成長することを期待します。

皆さんは、本日から本学の学生として勉学や課外活動などに励むわけですが、入学の動機や目的はそれぞれ異なることでしょう。受験競争の中で結果として本学に入学しているとすれば、入学したけれどもしたいことを見出すことができず、迷っている人もいることでしょう。これまでの私の教育経験から言えば、早く迷いを払拭し、勉学や課外活動に励んだ方が良い結果が出ています。皆さんは本学へ入学する意志決定を行なったのですから、修了後または卒業後、入学の意志決定が正しかったと胸を張って言えるように満足できる結果を出してください。

満足のゆく結果が得られたかどうかを判断できるようにするためには、志を立て、目的や目標を持って日々努力を続けなければなりません。就職活動を始めたり、実社会に出て働いてみたりすると、もっと勉強しておくべきだったと気づくことが多いのです。

「後悔先に立たず」ですから、入学に際しては卒業後の就職や進学のことを想定して、できるだけ早期に目標や目的を決めてください。それが決まれば、何をすべきかについては自ずと明らかになるでしょう。在学期間中の行動計画を立てて、日々の学生生活を目標管理してください。特にご父母の皆さんは、学生の皆さんが卒業後は少なくとも就職して経済的に自

立することを期待されているはずですから、期待に応える結果を出してください。

実社会で活躍するために必要な教育は、知育ばかりでなく、徳育および体育も必要です。課外活動を通して、組織構成員としての規律や善悪の判断力を身に付け、実社会で活躍するために必要となる気力体力も養ってください。そのために本学では、従来から勉強ばかりでなく課外活動にも注力してきました。その成果として、課外活動においても輝かしい実績を残してきました。前年度に限っても、四国インカレにおいては、男子については連勝が途絶えてしまいましたが、女子については二一年連続二一度目の総合優勝を果たしました。中国四国大会では一四サークルが個人または団体が優勝、全国大会ではダンス部が特別賞を受賞、男子テニス部が団体戦ベスト4、なぎなた部が個人ベスト4、フィギュアアイススケート同好会がアイスダンス個人の部で1位、落語研究部がコント部門個人で優勝しています。卒業生では土佐礼子選手が、昨年九月に大阪で開催された世界陸上大阪大会女子マラソンで3位入賞・銅メダルを獲得し、本年八月に開催される北京オリンピック女子マラソン代表の一員に決定していることは皆さんご存じでしょう。本年はオリンピック・イヤーですから、皆さんとともに応援したいと思います。また、土佐選手に続いて、皆さんの中から将来オリンピック選手が誕生することを期待します。

今春の卒業生については、就職希望者の就職率は九六・一パーセントに達し、過去のバブル時代の就職率に迫る勢いです。求人社数が最も多い関東圏での就職支援を第一義的な目的として、昨年十月一日付けで松山大学東京オフィスを開設しました。今後も教育支援体制や就職活動支援体制を充実させる所存です。

校訓「三実主義」に基づいて教育研究を行い、各学部学科の教育目的や目標を達成することにより、皆さんが修了または卒業を迎えた時に、本学へ入学した意志決定が正しかったと評価できるようになることを期待して

おります。最後になりましたが、皆さんが地域・社会のために、さらには世界のために貢献できる有為な人材となられるよう祈念して、式辞といたします。

平成二〇年四月三日

松山大学

学長 森本 三義 』<sup>4)</sup>

式辞は前年とほぼ同様であるが、在学生の課外活動の活躍や卒業生の土佐礼子選手の活躍、就職状況の良好さについて詳しく述べている。

4月24日、第1回全学教授会が開催された。報告事項として、「2008年度事業計画及び予算について」が報告された。そこで、志願者、定員確保のために、魅力ある、個性ある大学づくりを押し進めることが述べられている。また、購入した南海放送旧本社空き地については利用計画を本年中に策定することを述べていた。

5月22日、第2回全学教授会が開催された。

5月30日、本学と伊豫銀行との間で「連携協力協定書」の調印が行なわれた<sup>5)</sup>

6月2日、本館ホールにて、2009年度の入試説明会が行なわれた<sup>6)</sup> 2009年度から入試制度が大きく変更されることになった。その大要は次の通りであった。

①これまで、一般入試は、2月中旬に経済、経営、人文、法・薬の4日間続けて入試を行なっていたが、Ⅰ期入試とⅡ期入試に分割し、Ⅰ期入試は1月25日に早期に実施し、Ⅱ期入試は2月11日、12日の2回とし、11日に経済と経営、12日に人文と法の試験とした。Ⅰ期入試は英語と国語の2科目入試、Ⅱ期入試は従来変わらず3科目入試とした。Ⅰ期入試は早く合格を決

---

4) 松山大学総務課所蔵。

5) 『学内報』第379号、2008年7月。

めたい受験生に応えたものであり（関西や中国の私学は本学より早く試験を行っていた）、Ⅱ期入試は、松山大学の各学部を併願する受験生の身体的・経済的負担を軽減せんとするものであった（併願受験すると検定料も割引）。また、本学の教職員の負担を軽減も勘案していた。なお、薬学部は、Ⅰ期入試は1月25、26日の両日、Ⅱ期入試は2月12日であった<sup>6)</sup>。

- ②センター利用入試も変更した。前期日程と後期日程の2つに分割し、さらに、それぞれA、B方式を導入した。A方式は個別試験併用型であり、B方式は大学センター試験単独方式であった。そして、B方式でも学部によって異なっていた。例えば、経済学部の場合、前期はB方式のみで、センター試験高得点上位2科目の合計、後期はA、B方式があり、Aは2009年3月10日に本学が実施する英語の得点とセンター入試の英語を除く上位1科目の合計で判定し、Bはセンターの地理または、公民の高得点の1科目と他のすべての科目の高得点の1科目の合計で判定するものであった。経営学部の場合は、前期も後期もともにA、B方式があり、人文は前期B方式のみ、法は前期も後期もB方式のみ、薬も前期も後期もB方式のみであった。そして、B方式のセンター単独方式でも各学部で計算方式に違いがあった。要するに、受験生からみて、難解、複雑怪奇な計算方式であった。

6月26日、第3回全学教授会が開催された。学長より平田桂一副学長に加え、経済学部の安田俊一教授（2008年4月より理事長補佐）を副学長候補とする提案がなされ、選出された。ただ、副学長の条件について、前神森智学長時代に申し合わせた条件は、学部長または研究科長経験者で学位を取得しているものであったので、その条件に照らして安田教授提案には問題があった<sup>7)</sup>。森本学長は、前神森学長時代の理事であり、その点をよく知っていたにもかかわらず、申し合わせを無視したのは大学運営上問題を残すことになった。

6) 『学内報』第276号、2008年6月。

7) 『学内報』第380・381号、2008年8・9月。

8月1日発行の『学内報』第380・381号に、2007年度決算の概要が掲載されている。そこで、仕組債に運用した資金のうち、時価が貸借対照表額を下回っているものがあり、その損失額は4億2,258万5,000円にのぼっていた。また、デリバティブ取引で、評価損益が9,254万2,807円にのぼっていた<sup>8)</sup>。寄附行為違反、運用の失敗であった。

8月23日、学識経験者からの選出の理事、石川富治郎（81歳）が死去し、退任した<sup>9)</sup>。

9月13、14日、2009年度の大学院入学試験第Ⅰ期入試が行なわれた。経済は志願者がゼロであった。経営は5名受験して5名が合格した。言語コミュニケーションは3名が受験して2名が合格した。社会はゼロであった。学内特別選抜はいずれも志願者はいなかった<sup>10)</sup>。

9月15日、サブプライム住宅ローンの焦げつきが原因で、アメリカの投資銀行、リーマンブラザーズが破たんし、これ以降世界金融危機・世界恐慌に発展する。

9月19日、社会連携事業を推進することを目的として、松山大学ソーシャルパートナーシップ（MSPO）が発足し、その室長に松浦一悦（理事長補佐）が就任した。外部と本学との連携事業の窓口であった<sup>11)</sup>。

9月23日、広島県の道後山高原クロカンパークにて開催された第13回中国四国大学女子駅伝において、本学の女子駅伝部が初優勝を飾り、10月26日の仙台で開催される第26回全日本大学女子駅伝の出場権を獲得している<sup>12)</sup>。女子駅伝部は、大西崇仁経済学部講師が監督として、2007年4月陸上部内で活動をはじめ、2008年7月女子駅伝部として独立したもので、歴史が浅いにもかかわらず、快挙であった。

---

8) 『学内報』第380・381号、2008年8・9月。

9) 『学内報』第382号、2008年10月。

10) 『学内報』第383号、2008年11月。

11) 『学内報』第387号、2009年3月。同第396号、2009年12月。

12) 『学内報』第383号、2008年11月。

9月27日、2009年度の経済、経営のAO入試が行なわれた。経済はAO入試を初めて導入した（募集人員15名）。経営は、前年に比し、5名増やした。結果は後述する。

10月26日、女子駅伝部が仙台で開催された第26回全日本大学女子駅伝に初出場し、第18位と健闘した<sup>13)</sup>

11月7日、理事会は、中長期経営計画を立案すべく、中長期経営計画委員会を設置した。その委員は次の通りで、経営側と教学側から委員を選出していた<sup>14)</sup>

副学長	安田俊一（委員長）
常務理事	墨岡 学
常務理事	猪野道夫
教学会議構成員（学部選出）	張 貞旭
教学会議構成員（学部選出）	上杉志朗
教学会議構成員（学部選出）	宮沖 宏
教学会議構成員（学部選出）	水野貴浩
薬学教授	吉田隆志
事務局長	越智純展
理事長補佐	岡村伸生

なお、この委員会の趣旨説明、諮問事項が不明であるが、後の文書から、この委員会に旧南海放送の跡地利用を諮問していた。

11月9日、2009年度の薬学部の推薦入試（指定校、一般公募）が行なわれた。募集人員は指定校30名、一般公募20名で、前年と変化はなかった。

11月15日、16日の両日、2009年度の文系の推薦（指定校、一般公募）・特別選抜入試が行なわれた。募集人員は前年に比し、経済が一般公募を5名減ら

13) 『学内報』第383号、2008年11月。

14) 『学内報』第385号、2009年1月。

し、法学部が一般公募を10名減らし、特別選抜で若干名を25名に増やした。他は変わりがなかった。

それらの結果は次の通りであった<sup>15)</sup> 薬学部は指定校、一般公募ともに募集人員を大幅に下回り、厳しい状況が続いたことがわかる。

表1 2009年度推薦・特別選抜入試

	募集人員	志願者	合格者
経済学部（指定校制）	105名	125名	125名
（一般公募制）	25名	153名	75名
（特別選抜）	17名	10名	10名
（アドミSSIONズ・オフィス）	15名	25名	24名
経営学部（指定校制）	50名	53名	53名
（一般公募制）	32名	133名	62名
（アドミSSIONズ・オフィス）	35名	163名	81名
（特別選抜）	33名	39名	39名
人文英語（指定校制）	25名	23名	23名
（特別選抜）	10名	16名	12名
社会（指定校制）	15名	26名	26名
（特別選抜）	若干名	0名	0名
法学部（指定校制）	20名	21名	21名
（一般公募制）	50名	169名	120名
（特別選抜）	25名	35名	23名
薬学部（指定校制）	30名	14名	14名
（一般公募制）	20名	18名	18名

15) 『学内報』第385号、2009年1月。

11月26日、大学院経済学研究科は上海師範大学商学院・对外漢語学院との間でダブル・ディグリープログラム協議をし、そのため、朱徳通商学院長等4人が本学を訪れ、協議している<sup>16)</sup>

11月30日付けで、法人理事の新田晃久氏が辞任し、代わって12月1日付けで新田元庸氏が就任した<sup>17)</sup>

12月17日、宮本経済学部長の任期満了に伴う学部長選挙が行なわれ、鈴木茂（59歳、財政学、地域経済学）が選出された<sup>18)</sup>。任期は2009年4月から2年間。

12月19日、八木短大学長の定年に伴う短大学長選挙が行なわれ、清野良栄（経済学部教授、58歳、現代資本主義論）が選出された<sup>19)</sup>。任期は2009年4月から3年間。

本年末で、森本学長の任期が満了となるので、松山大学学長選考規程に基づき、選挙管理委員会が組織された（委員長は掛下達郎）。

10月1日、学長選挙の公示がなされた。選挙権者は249名（教員148名、職員101名）であった。

10月14日、第1次投票が行なわれ、結果は次の通りであった。

1. 選挙権者	249
2. 棄権	40
3. 投票総数	209
4. 無効	14
5. 有効投票	195
森本三義	100

16) 『学内報』第385号、2009年1月。

17) 同。

18) 『学内報』第386号、2009年2月。

19) 同。



原田満範	65
平田桂一	15
岩橋 勝	5

よって、上位3名が第2次投票の候補者となった。原田候補は1944年6月生まれ、神戸大学大学院修士課程を修了し、1966年4月松山商科大学助手となり、その後、講師、助教授、教授となり、経営学部長や理事などの要職を務めていたが、退職し、新特任教授となっていた。平田候補は1947年1月生まれ、神戸商科大学大学院経済学研究科修士を修了し、1978年4月松山商科大学講師となり、その後、助教授、教授となり、副学長、常務理事、経営学部長を務めていた。

11月7日、第2次投票が行なわれた。結果は次の通りであった。

1. 選挙権者	249
2. 棄権	31
3. 投票総数	218
4. 無効	7
5. 有効投票	211
森本三義	105 (教員 48, 職員 57)
原田満範	92 (教員 57, 職員 35)
平田桂一	14 (教員 7, 職員 7)

よって、森本、原田候補の決戦投票となった。

11月20日、第3次投票が行なわれた。結果は次の通りであった。

1. 選挙権者	249
2. 棄権	18
3. 投票総数	231
4. 無効	5

5. 有効投票	226
森本三義	120（教員 56, 職員 64）
原田満範	92（教員 70, 職員 36）

森本候補が有効投票の過半数を上回ったが、教員の過半に達せず、2年前と同じく、ただし書きの規定により森本候補が当選し、再選された。森本候補は職員の支持は多数だが、教員の支持は少数の再選であった。

12月31日、森本学長が任期満了に伴い退任した。あわせて、規程により、平田桂一、安田俊一の両副学長も退任した。また、平田桂一副学長は寄附行為の規程により理事、常務理事も退任した<sup>20)</sup>

2009年1月1日、森本学長・理事長が再任した。2期目であった。

1月1日発行の『学内報』に森本学長・理事長は再任の挨拶文を載せた。そこで、これまで2年間の在任中に、旧南海放送跡地の取得、東京オフィスの開設、産官学連携体制と中長期経営計画立案体制の確立を行なうことができた。しかし、就任時に述べた教育支援体制の充実、社会人教育の充実の課題については、まだ道中ばであるが、旧南海放送の跡地利用でその課題を解決していきたい、と抱負を述べた。そして、跡地利用についてすでに中長期経営計画委員会に諮問しており、その答申に基づき、教学会議を経て理事会で決定していく。そして、跡地には、キャリアセンターの移転、エクステンションセンターの移転、クリニック、薬局の設置、教室の確保などを挙げていた。また、本学の中長期経営計画について、これまでその立案ができなかった原因は、学長・理事長の任期が短い点にあると指摘し、学長の任期は最初の任期は少なくとも4年に延長すべきだと提案していた<sup>21)</sup>

---

20) 『学内報』第387号、2009年3月。

21) 『学内報』第385号、2009年1月。

この挨拶について、少しコメントしよう。

- ①南海放送跡地対策で、クリニック、薬局とは奇異、唐突感を免れない。
- ②また中長期計画の立案ができない原因は、学長任期の問題ではなく、教学会議及び理事会でよく議論をしていないことであろう。
- ③さらに、大幅な定員割れを続け、苦戦中の薬学部について何も述べていないのは問題であろう。

1月1日、再任の森本理事長は、理事長補佐として、松浦一悦経済学部教授と岡村伸生財務部長を再任させた<sup>22)</sup>

1月8日、全学教授会が開催され、副学長として安田俊一経済学部教授が提案され、選出された（再任）。

1月17、18の両日、2009年度の大学入試センター試験が行なわれた。新入試制度によるセンター利用入試前期日程であった。AとB方式があり、Aは個別試験併用型、Bはセンター試験単独型であった。募集人員は、経済はB方式20名、経営はAとB方式あわせて25名、人文英語はB方式10名、社会はB方式15名、法はB方式10名、薬はB方式5名であった。

結果は次の通りである<sup>23)</sup> 志願者は経営のみ増えたが、他学部は減少した。薬学部はまたまた苦戦した。

表2 2009年度センター利用入試

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	20名	531名	(569名)	346名	1.53
経営学部	25名	704名	(489名)	393名	1.78
人文英語	10名	107名	(132名)	69名	1.55
社会	15名	199名	(249名)	126名	1.58

22) 『学内報』第385号、2009年1月。

23) 『学内報』第387号、2009年3月。

法学部	10 名	255 名	(262 名)	147 名	1.73
文系合計	80 名	1,796 名	(1,701 名)	1,081 名	1.66
薬学部	5 名	56 名	(78 名)	42 名	1.31
総 計	85 名	1,852 名	(1,779 名)	1,123 名	1.64

1 月 22 日、金森言語コミュニケーション研究科長の任期満了に伴う科長選挙があり、岡山勇一（62 歳，英文学）が選出された<sup>24)</sup> 任期は 2009 年 4 月から 2 年間。

1 月 25 日、2009 年度、新入試制度による文系 4 学部的一般入試・Ⅰ期日程（英語、国語の 2 科目入試）と経営学部のセンター利用入試（前期日程 A 方式）が行なわれた。新入試制度改革では、一般入試をⅠ期とⅡ期に分割し、Ⅰ期を 1 月に前倒した初めての入試であった。

1 月 25、26 日の両日、2009 年度の薬学部の第Ⅰ期入試（定員 80 名）が行なわれた。

それらⅠ期入試の結果は次の通りである<sup>25)</sup> 文系 4 学部のⅠ期入試の志願倍率は 26.9 倍と過去最高となり、成果を上げたが、薬学部は前年をまた下回った。

表 3 2009 年度一般入試・Ⅰ期日程

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	20 名	655 名	—	191 名	3.41
経営学部	20 名	611 名	—	167 名	3.62
人文英語	10 名	206 名	—	95 名	2.14
社会	10 名	324 名	—	104 名	3.10
法学部	20 名	355 名	—	107 名	3.30

24) 『学内報』第 387 号，2009 年 3 月。

25) 同。

文系合計	80 名	2,151 名	—	664 名	3.21
薬学部	80 名	133 名	(176 名)	93 名	1.43
総 計	160 名	2,284 名		757 名	2.99

1月30日、理事会が開催され、副学長の安田俊一が寄附行為により当然評議員、当然理事となり、そして、常務理事に選出された<sup>26)</sup>

2月5日に、山田社会学研究科長の任期満了に伴う科長選挙があり、今枝法之(52歳、現代社会論)が選出された<sup>27)</sup> 任期は2009年4月から2年間。

2月11、12日の両日、新入試制度による2009年度の一般入試のⅡ期入試(従来通り3科目入試)が行なわれた。11日が経済・経営、12日が人文、法、薬の入試であった。結果は次の通りであった<sup>28)</sup>

表4 2009年度一般入試・Ⅱ期日程

	募集人員	志願者	(前年)	合格者	実質競争率
経済学部	173 名	1,145 名	—	276 名	3.53
経営学部	180 名	1,079 名	—	257 名	3.58
人文英語	45 名	277 名	—	106 名	2.34
社会	80 名	587 名	—	142 名	2.99
法学部	80 名	578 名	—	133 名	3.82
文系合計	555 名	3,666 名	—	914 名	3.36
薬学部	20 名	18 名	(34 名)	11 名	1.18
総 計	578 名	3,684 名		825 名	3.33

26) 『学内報』第387号、2009年3月。

27) 同。

28) 同。

文系4学部5学科の一般入試のⅠ期とⅡ期の志願者の合計は、5,817名で、前年の3,563名よりも2,254名、36.7%増えた。実人数は約300名増え、実質競争率も1.65倍→3.36倍に増えた。新しい入試改革の成果であった。入試委員長増野仁は「制度改革のとりあえずの目標の大部分は、今回の実施においてほぼ達成されつつある」と述べている<sup>29)</sup>。他方、薬学部は募集人員も来ず、惨憺たる状況となった。

2月28日、3月1日の両日、2009年度の大学院第Ⅱ期入試が行なわれた。経済はシニア特別選抜で1人受験し、1人合格した。博士は1人受験し、1人合格した。経営は一般選抜で2人受験し1人合格し、社会人特別選抜で2人受験し2人合格した。言語は一般選抜で3人が受験し、2人が合格した。社会は社会人特別選抜で1人が受験し、1人が合格した。博士は2人受験し、1人合格した<sup>30)</sup>。

3月10日、大学入試センター利用入試の経済後期15名（A方式＝個別試験併用型）、経営後期15名（同）の試験が行なわれた。

3月16日、大学入試センター利用入試の薬の後期B方式の合格発表、18日に経済・経営後期AB方式、法の後期B方式の合格発表がなされた<sup>31)</sup>。

3月19日、午前10時よりひめぎんホール（愛媛県民文化会館）にて、2008年度の卒業式が行なわれた。森本学長は式辞の中で「新たな旅立ちに際しては、大志を抱き、それを成し遂げるべく、強い意思をもって粘り強く努力し、不屈の精神で乗り越えて下さい」と餞の言葉を贈った<sup>32)</sup>。それは次の通りである。

「地球温暖化を実感した冬も終わり、皆さんがいよいよ学び舎から巣立

---

29) 増野仁「2009（平成21）年度入学試験結果報告－一般入試を中心に－」『学内報』第387号、2009年3月。

30) 『学内報』第388号、2009年4月。

31) 『学内報』第387号、2009年3月。同、第388号、2009年4月。

32) 『学内報』第388号、2009年4月。

つ今日の佳き日に多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成二十年度松山大学・大学院学位記・卒業証書・学位記授与式を盛大に挙行できますことは、本学の光栄とするところであり、教職員を代表して心から御礼申し上げます。

修了生および卒業生の皆さん。ご修了・ご卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて、皆さんがこうしてご修了、ご卒業の日を迎えられたことに対して心からお慶び申し上げます。また、保護者の皆様におかれましても、これまでの日々を振り返ると感慨無量であり、さぞかしご安堵なされているものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

さて、修了生および卒業生の皆さん、皆さんが入学した折りにも説明されたはずですが、今日の卒業式においても松山大学の歴史と教学理念としての校訓「三実主義」について述べておきます。これは、本学出身者として誇りを持ち、さらに教学理念を生かして実社会において活躍していただきたいと願って行っているのです。本日もこの二点について、先ず、お話しておきたいと思います。

松山大学は大正十二年〔一九二三年〕に開校した旧学制による松山高等商業学校がその始まりです。本校は、松山市出身で、日本初の工業用革ベルトの開発を遂げて製革業において成功し、大阪産業界の雄となり、世間からは「東洋の製革王」と呼ばれ、また、司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する秋山好古と親交のあった新田長次郎〔雅号温山〕、当時の松山市長であり、俳人正岡子規の叔父に当たる加藤恒忠〔雅号拓川〕、教育家であり、山口高等中学校長、大阪高等商業学校長、北予中学〔現 県立松山北高等学校〕校長になられた加藤彰廉らの協力によって設立されました。長次郎翁は、高等商業学校設立の提案に賛同し、学校の運営には自らは関わらないことを条件に、設立資金として巨額の私財を投じて、松山高等商業学校を創設しました。温山翁は製革業やその関連事業の成功を自分だけのものにするのではなく、教育や文化の発展のために還元され、広く社会

貢献をされました。現在、文京町キャンパス内に、感謝の意を込めて、三恩人としてそれぞれの胸像を設置しています。

昭和十九年に松山経済専門学校と改称し、第二次世界大戦後の学制改革により昭和二十四年に商経学部〔現 経済学部、経営学部〕を開設して松山商科大学となり、その後、大学院経済学研究科、人文学部、大学院経営学研究科、法学部を順次開設して文系総合大学となり、平成元年〔一九八九年〕に校名を変更して松山大学となりました。平成十八年（二〇〇六年）に五番目の学部である理系の薬学部と三番目の大学院である大学院社会学研究科を開設して、本学は名実共に総合大学となりました。さらに平成一九年には四番目の大学院である大学院言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻を開設して、教育研究体制をさらに充実しています。

松山大学の教学理念は、初代校長加藤彰廉が提唱し、第三代校長田中忠夫によってその意義が確立された「真実」「忠実」「実用」の三つの実を持った校訓「三実主義」です。真実とは「真理に対するまことである。皮相な現象に惑溺しないで進んでその奥に真理を探り、枯死した既成知識に安住しないでたゆまず自ら真知を求める態度である。」と、忠実とは、「人に対するまことである。人のために図っては己を虚しくし、人と交わりを結んでは終生操を変えず自分の言行に対してはどこまでも責任をとらんとする態度である。」と、実用とは、「用に対するまことである。真理を真理のままに終わらせないで、必ずこれを生活の中に生かし社会に奉仕する積極進取の実践的態度である。」と説明されています。咀嚼すれば、三実主義とは、教育研究においては真理を探究することはもちろんのこと、その真理を日々の生活や仕事の中に応用できるものにすること、また、組織において能力を発揮するためには信用・信頼される人格にならないとかなければならないことを説いていると考えます。

この校訓「三実主義」は、特に現状のように大不況に見舞われ、先が見



通せず不安になっているときこそ重視されるべき教訓であると考えます。

皆さんを社会に送り出すに当たりまず期待することは、この校訓「三実主義」をわが身に体して、信用・信頼を大切にして実社会で活躍していたきたいということです。

本年は、創立八十七年目になりますが、この間に社会に送り出した卒業生は約六万三千人に達し、産業界を中心に教育界や官公庁などにあつて、全国的に活躍し、高い評価を得てきました。これも卒業生の皆さんが、校訓「三実主義」を体して活躍した結果であり、これが松山大学の伝統になっていると確信しています。皆さんも伝統を守り、先輩たちに続いてご活躍ください。

近年においては景気も回復し、団塊世代の大量退職の影響もあり、就職状況は好転して売り手市場となっていました。しかし、現在では一転して大不況に陥り、就職難の時代に逆戻りしてしまいました。幸いにも皆さんの就職活動中は状況が良く、リーマンショックを引き金として生じた世界同時的金融危機、経済危機の影響はまだなく、就職の内定が得られたことと思います。元来、景気には循環があり好況不況を繰り返します。

思い起こせば、バブル崩壊・不況への突入も突然訪れましたし、今回の不況も突然訪れた感があります。バブル崩壊後の不況も長年続きましたから、今回の不況もしばらく続くものと覚悟して不屈の精神で困難を乗り越えて下さい。

皆さんに対してもう一つ期待することは、学び舎から巣立ち、新たな旅立ちに際して、大志を抱き、それをどんなことがあろうとも成し遂げようとする強い意志をもって、粘り強く努力していただきたいということです。「意志あるところに道あり」の精神で頑張ってください。温山翁は十六歳の時に福沢諭吉の「学問のススメ」を読んで感動し、二十歳で大志を抱いて温泉郡山西村（現 松山市山西町）から大阪に出て、洋式製革技術を習得して、二十七歳で独立し成功したのです。温山翁の精神を継承し、大志を

抱き目標に向かって努力していただきたいのです。

皆さんご承知の通り少子化の影響は大きく、全国的に見ても私立大学の約半数が定員割れの状況になっています。今回の金融危機によって引き起こされた大不況によって進学が困難になり、状況がさらに深刻化して、ますます大学間競争は厳しくなることでしょう。このような状況にあっても、環境の変化に適応し、校訓「三実主義」に基づいて教育研究に励めば、社会から信用・信頼され、西日本有数の私立大学として持続的に発展できるものと確信します。後輩たちは、卒業生の実社会における活躍を見て自分自身の将来を思い描いて松山大学に入学してくるものですから、皆さんが実社会で活躍していただくことが大学への最大の支援になります。卒業生・修了生によって組織される「温山会」は北は北海道から南は九州まで全国的に組織され、活発に活動しています。皆さんも温山会の一員になりますから、就職先の地域にある温山会支部総会に出席して親睦を深めて下さい。今後も温山会活動を通じて協力関係が築けることを期待しております。

最後になりましたが、皆さんが今後も益々ご健勝でご活躍いただき、地域・社会のために、さらには世界のために貢献できることを祈念して式辞といたします。

平成二一年三月一九日

松山大学

学長 森本 三義 J<sup>33)</sup>

3月31日、経済学部で青野勝広（65歳、経済学）が退職し、短大に移籍した。北島健一（地域経済論）も退職し、立教大学に転出した。経営学部で三好和夫（経営学）、菊池一夫（マーケティング論）、人文学部で千石好郎（社会

---

33) 松山大学総務課所蔵。

体制論), 横山知玄(組織論, 集団論)が退職した。法学部では菊地秀典(民法), 田中雅敏(ドイツ語)が退職, 転職した<sup>34)</sup>

(以下, 次号)

---

34) 『学内報』第388号, 2009年4月。